



東北矯正歯科学会
Tohoku Orthodontic Society

第 19 回東北矯正歯科学会秋期セミナーのご案内

2025 年 11 月 23 日（日）に東北矯正歯科学会主催の秋期セミナーをオンライン形式（ライブ配信と 2 週間のオンデマンド）で開催します。今回は「包括治療－矯正・歯周・補綴治療の連携－」というテーマのもと、矯正歯科臨床の最先端でご活躍の 3 名の先生方にご講演をいただきます。本セミナーは学会会員だけでなく、非会員の方々も聴講可能ですので、奮ってご参加いただければと存じます。

【主 題】包括治療－矯正・歯周・補綴治療の連携－

【会 期】2025年11月23日（日）13時から16時まで(1演者 1 時間)

【講演者】綿引淳一先生、大坪邦彦先生、川鍋 仁先生

【開催方法】Zoom を使用した Webinar 開催（ライブ配信）、オンデマンド配信期間：12/10～12/24

【対象者】東北矯正歯科学会会員(無料・申込不要)と非会員 (要申込)

【参加費 (非会員)】非会員の方は 10,000 円です。

【参加登録 (非会員)】**【非会員用申込登録】**(クリックすると登録画面へ移動します)からお申し込みください。

【講演者】



演者 1) 綿引淳一先生（東京日本橋 AQUA 歯科・矯正歯科包括 CLINIC）

歯肉退縮の再考

－矯正治療と歯周再生の境界領域から見た包括的アプローチ－



演者 2) 大坪邦彦先生（医療法人社団 大坪矯正歯科医院）

欠損補綴を有する中高年の矯正治療

－Ni-Ti ワイヤーを有効利用するには－



演者 3) 川鍋 仁先生（奥羽大学歯学部成長発育歯学講座 歯科矯正学分野）

包括的歯科医療における矯正歯科の役割

【問い合わせ先】

東北矯正歯科学会学術委員会 大堀文俊（幹事）

東北大学大学院歯学研究科顎口腔矯正学分野

Phone : 022-717-8374 Fax : 022-717-8378 E-mail : fumitoshi.ohori.b4@tohoku.ac.jp



非会員用【第 19 回東北矯正歯科学会秋期セミナー】閲覧申込方法

①閲覧登録画面（下記 URL）を開く

※案内文に記載されている黄色の網掛けをクリックすると、閲覧申込画面が表示されます。

閲覧申込用 URL : <https://www.sasappa.co.jp/tos19s/regi/index1.php>

②セミナーの閲覧申込み

水色の四角で表示されている下記をクリックしてください。

↓

セミナー閲覧の新規登録／更新又は取消ページ

※登録完了後に変更・取消を行う際も同じところをクリックしてください。

③セミナー閲覧入力ページ

☐承諾する→☒（チェックマークを入れる）し、下記をクリックしてください。

↓

セミナーの新規閲覧入力

④閲覧区分 「当日閲覧」か「オンデマンド配信」かどちらか選択してください。

※「当日閲覧」「オンデマンド配信」のどちらを選択しても、両方、閲覧することができます。

両方閲覧しても料金は 10,000 円のみです。閲覧方法はメールでお知らせいたします。

（認定医のポイントは 1 回分です）

⑤セミナー閲覧者情報入力ページ

・閲覧者の氏名・連絡先・メールアドレスを入力してください。

※認定医のポイントが必要な方は、必ず日本矯正歯科学会の会員番号を入力してください。

↓

確認ページへ進むをクリックしてください。

⑤セミナー閲覧確認ページ

登録内容に誤りがないか、よく確認の上、**登録**をクリックしてください。

登録されたメールアドレスへ、**tos41@sasappa.co.jp** から【閲覧申込予約(新規)受付書】がメールで届きます。

参加費の支払い方法は、受付書に記載されておりますので、メールが届き次第、お振込みをお願い致します。

以上、閲覧申込方法について、ご不明な点がある方は、下記までお問合せ下さい。

第 19 回東北矯正歯科学会秋期セミナー運営事務局

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町 8 番 45 号（笹氣出版印刷株式会社内）

TEL: 022-288-5555 FAX: 022-288-5551 e-mail: tos41@sasappa.co.jp

歯肉退縮の再考 ―矯正治療と歯周再生の境界領域から見た包括的アプローチ―



綿引 淳一（東京日本橋 AQUA 歯科・矯正歯科包括 CLINIC）

【略歴】

1999 年 昭和大学歯学部卒業
2004 年 昭和大学歯学部歯科矯正学 大学院卒業
2006 年～ AQUA 日本橋 DENTAL CLINIC(現：東京日本橋 AQUA 歯科・矯正歯科 包括 CLINIC) 勤務
2007 年～ 昭和大学歯学部歯科矯正学教室 兼任講師
2008 年～2012 年 理化学研究所脳科学総合センター 客員研究員
2009 年～2011 年 ニューヨーク大学インプラント科 CDE 修了
2018 年～2023 年 アメリカ顕微鏡歯科学会 理事
2011 年～2017 年 アサヒグループ HD 和光堂 商品開発コンサルタント
2021 年～ 包括的矯正歯科研究会（現 日本包括的矯正歯科学会）発足
2023 年～ Dental Brain Inc. 設立(AI ベンチャー開発企業)
2024 年～ Interdisciplinary Orthodontics Research Center(IORC)設立

【認定医資格等】

日本矯正歯科学会臨床指導医
日本矯正歯科学会認定医
日本歯周病学会認定医

【受賞歴】

第 114 回アメリカ矯正歯科学会 Joseph E. Johnson Clinical Award (2014)
日本臨床歯科学会(SJCD) 東京 SJCD Award (2018)
日本臨床歯科学会(SJCD)合同例会優勝 (2022)
日本咀嚼学会 優秀講演賞 (2012)
日本矯正歯科学会 優秀発表賞 (2004, 2006, 2009, 2010),
昭和大学矯正学教室 槇教授賞 (2004)

【主な講演関連書類】

包括的矯正歯科治療 単著 2023 年 11 月 10 日 クインテッセンス出版
The Ortho-Perio Patient 監訳 2023 年 11 月 10 日 クインテッセンス出版

【抄録】

矯正治療において歯肉退縮は、単なる審美的・加齢的变化ではなく、治療計画そのものに起因する医原

性リスクとして近年再注目されています。特に非抜歯治療に伴う前方拡大量の増加や、歯槽基底を越えた歯の移動、薄い歯肉フェノタイプを有する患者において、退縮の発現率が高まる傾向にあります。

本講演では、歯周組織—とりわけ歯根膜（PDL）の生理機能と再生力に注目し、矯正治療における「力のかけ方」と「保定設計」がいかに歯肉退縮の発現と関連しているかを、最新文献と症例を通じて考察します。また、近年注目されている骨裂開部における「PDL サンドイッチ仮説」を紹介し、我々が研究を進めている「O-PRO（Orthodontic-Periodontal Regenerative Optimization）」や「Lateral Extrusion Technique（LET）」のコンセプトを紹介し、歯周再生と矯正治療を融合させた次世代の interdisciplinary strategy を提案します。

欠損補綴を有する中高年の矯正治療 —Ni-Ti ワイヤーを有効利用するには—

Effective Use of Ni-Ti Wires in Orthodontic Treatment for Middle-Aged and

Elderly Patients with Tooth Loss



大坪 邦彦（医療法人社団 大坪矯正歯科医院）

【略歴】

1987 年 3 月：日本歯科大学歯学部卒業
1987 年 4 月：東京医科歯科大学歯学部歯科矯正学第一講座専攻生
1993 年：日本矯正歯科学会認定医 第 136 号
1995 年 3 月：東京医科歯科大学歯学部博士号取得
1995 年 4 月：東京医科歯科大学歯学部第一講座文部教官助手
2000 年：日本矯正歯科学会指導医 第 494 号
2001 年 4 月：東京医科歯科大学歯学部第一講座文部教官講師
2003 年 4 月～：大坪矯正歯科医院院長
2004 年～：港区南青山保育園嘱託医
2005 年 4 月～：東京都港区麻布赤坂歯科医師会理事
2007 年 4 月～：日本矯正歯科学会理事
2007 年 4 月(2011 年まで)：東京医科歯科大学歯学部附属病院客員臨床教授
2011 年 4 月～：日本歯科大学生命歯学部矯正学講座 非常勤講師
2013 年 3 月～：アメリカ Edward H Angle 矯正歯科学会正会員(East Component)
2024 年 4 月：日本歯科専門医機構認定 矯正歯科専門医取得
2025 年 6 月～：港区麻布赤坂歯科医師会会長

【抄録】

2025 年になり、後期高齢者人口が最多となる時代となった。8020 達成者と咬み合わせの関係についての調査結果から、8020 達成者の中に「反対咬合」や「開咬」といった不正咬合の人が非常に少ないことがわかっている。一方、厚生労働省の歯科疾患実態調査では 55 歳を超えると歯数の減少が進行することが示されている。近年、矯正歯科専門診療所においても矯正歯科治療を希望する中高年の患者が増加している。このような症例では、欠損を有する症例が多く、保存不可能な歯も認められる。埋伏している第三大臼歯を咬合に参加させること等の矯正歯科治療が求められることもある。また、歯周炎の患者も散見され、歯根表面積の減少による歯冠歯根比の悪化に対応した至適矯正力を考えた丁寧な動的矯正治療が必要となる。

1986 年に矯正歯科治療用に開発された、超弾性型 Ni-Ti 合金アーチワイヤーは、ステンレススチールワイヤーの 1/3 の剛性で、さらに超弾性を有するため、弱い持続的な矯正力が可能となり、中高年患者の

マルチブラケットシステムの治療には非常に役立っている。その要因として、超弾性型 Ni-Ti 合金ワイヤーが、形状記憶合金であり、優れたスプリングバック特性を有していることが挙げられる。これら特性により、Ni-Ti 合金丸型ワイヤーはレベリング、Ni-Ti 合金角型ワイヤーは空隙閉鎖や仕上げのステージにおいて優れた効果を発揮する。そして、超弾性型 Ni-Ti 合金ワイヤーをより効果的に活用するためには、通電熱処理器によるワイヤーベンディングと機械的特性を変化させ活用することが必要と考えられる。

現在、多くの矯正歯科医師は、市販されている各種 Ni-Ti 合金ワイヤーが持つそれぞれの特性や矯正力を理解しないまま漠然と臨床応用しているように思われる。Ni-Ti 合金ワイヤーにおいて「口腔内温度での矯正力は？」「超弾性は過度な矯正力にならないのか？」「優れたスプリングバック特性は永久変形しないので危険ではないのか？」「応力ヒステリシスが大きいワイヤーとはどのような意味があるのか？」「口腔内温度変化が起こると、どのように矯正力が変化するのか？」さらには、「通電熱処理を用いてワイヤーベンディングを施すとワイヤーの特性は変化するのか？」などに対し明確に答えられるだろうか。

本講演では、各種 Ni-Ti 合金ワイヤーの口腔内環境における特性と、通電熱処理器による機械的特性変化について解説し理解を深めていただくとともに、私が行っている超弾性型 Ni-Ti 合金ワイヤーを用いた中高年の矯正治療について紹介する。口腔内環境における Ni-Ti 合金ワイヤーの特性と、その調整法を理解すれば、より安全で効率的な矯正治療が可能となると考える。

包括的歯科医療における矯正歯科の役割

川鍋 仁先生（奥羽大学歯学部成長発育歯学講座 歯科矯正学分野）



【略歴】

2000 年 奥羽大学歯学部歯学科卒業
2005 年 福岡歯科大学大学院（矯正歯科学）修了
2005 年 福岡歯科大学矯正歯科学分野助教
2007 年 医療法人伊東会 伊東歯科口腔病院・いとう歯科医院
2014 年 奥羽大学 成長発育歯学講座 歯科矯正学分野 講師
2017 年 Ohio State University 留学
2018 年 Ohio State University 非常勤講師
2020 年 奥羽大学 成長発育歯学講座 歯科矯正学分野 准教授
2023 年 奥羽大学 成長発育歯学講座 歯科矯正学分野 教授 現在に至る
2025 年 福島県立医科大学 医学部 形成外科学講座 特任教授 現在に至る

【資格】

日本歯科専門医機構 矯正歯科専門医 管理指導医
日本矯正歯科学会 認定医 指導医
日本口腔インプラント学会 専門医
日本口腔外科学会 認定医
日本歯周病学会 認定医
日本口蓋裂学会 認定師
日本顎変形症学会 認定医
日本外傷歯学会 認定医 指導医
日本歯科人間ドック学会 認定医
日本口腔ケア学会 認定医

【役職】

日本矯正歯科学会 理事 代議員
日本矯正歯科学会 臨床管理委員会 委員
日本矯正歯科学会 倫理審査委員会 委員
日本矯正歯科学会 編集委員会 委員
日本矯正歯科学会 国内渉外委員会 委員
奥羽大学歯学会 理事
アジア国際外傷歯学会 理事
日本外傷歯学会東日本地方会 理事

東北矯正歯科学会 理事 評議員
日本外傷歯学会 理事
日本口腔インプラント学会 代議員

【抄録】

日本は超高齢社会となり、矯正歯科治療を希望する患者さんにおいても比較的年齢の高い患者さんが増加傾向にあります。全身的に疾患を伴わない若年者に対する歯科矯正治療であればとくに問題なく矯正歯科治療を行うことができますが、年齢の増加とともに全身疾患を有する場合や歯周組織の影響により歯の移動が困難になるばかりでなく、口腔外傷、歯周疾患、カリエス等により歯の欠損を有する患者さんも多く治療困難とするファクターや治療のタスクが増えてしまいます。

そこで、我々歯科医師も全身疾患に対して十分に把握し医科との連携を取れるような知識が必要となります。さらに、院内において心肺停止などの急変などにも対応できるように BLS や ACLS の知識など歯科医師として取るべき救急対応や AED などの医療機器を設置する必要があります。当科では BLS を矯正基本研修 1 年時に必ず受講して急変時の対応方法について身につけています。

一方、歯の欠損や歯周疾患を有する患者さんに対しては、治療前に十分な診査と必要な歯科治療を行なった上で、矯正歯科治療を行いインプラント治療などの補綴治療を行うための診断やプランニングスキルを身につけることが必要であると考えます。

当院では、包括的な歯科治療を必要とする患者さんに対して矯正歯科医が中心となり様々な診療科と連携をして機能的咬合の確立を目的として治療のプランニングを行っています。そのため、当科の若手矯正歯科医師が包括歯科治療を学んでもらうことを目的として院内で行っているインプラントカンファレンスに参加してインプラント治療の知識を身につけるように研修を行っています。さらに顎変形症や口唇口蓋裂などの外科的治療が必要な治療においても矯正歯科、口腔外科や形成外科および補綴歯科の合同で行うカンファレンスにも参加して他科の治療に関しても学習する場を設けています。その知識をもとに全ての外科的手術時に立ち会いを行い口腔外科医や形成外科医とディスカッションしながら手術を行っています。

本セミナーでは、多くの患者さんにより良い医療が提供できるように、矯正歯科医としてではなく歯科医師として包括歯科医療にどのように参画すべきなのか考えていきたいと思います。

また、次世代を担う若手歯科医師が包括的歯科治療を立案し実行していくために少しでも役に立ちたいと考えています。